

第5章 実績報告

1. 温室効果ガスの削減目標

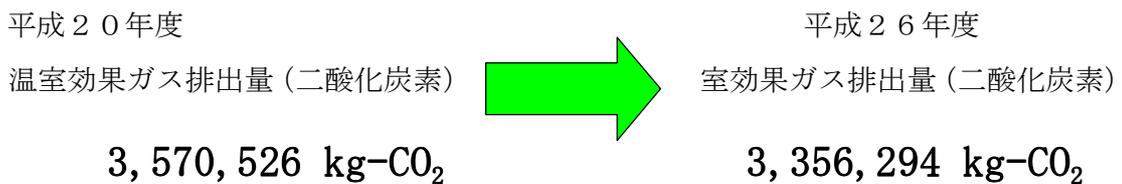
嘉手納町は、地球温暖化問題に取り組むため、平成22年3月に嘉手納町の事務・事業から排出する温室効果ガス（二酸化炭素）の削減目標と目標達成に向けた取り組み

（地球温暖化対策の推進に関する法律第20条の3第1項に基づく地方公共団体実行計画）

みの計画を作成した。

削減目標

平成20年度を基準として計画期間の最終年度である平成26年度の二酸化炭素排出量を、6%削減することを目指す。（注1）



注1：沖縄電力排出係数は、平成20年度の沖縄電力排出係数（0.946kg-CO₂/kWh）に統一

2. 実績

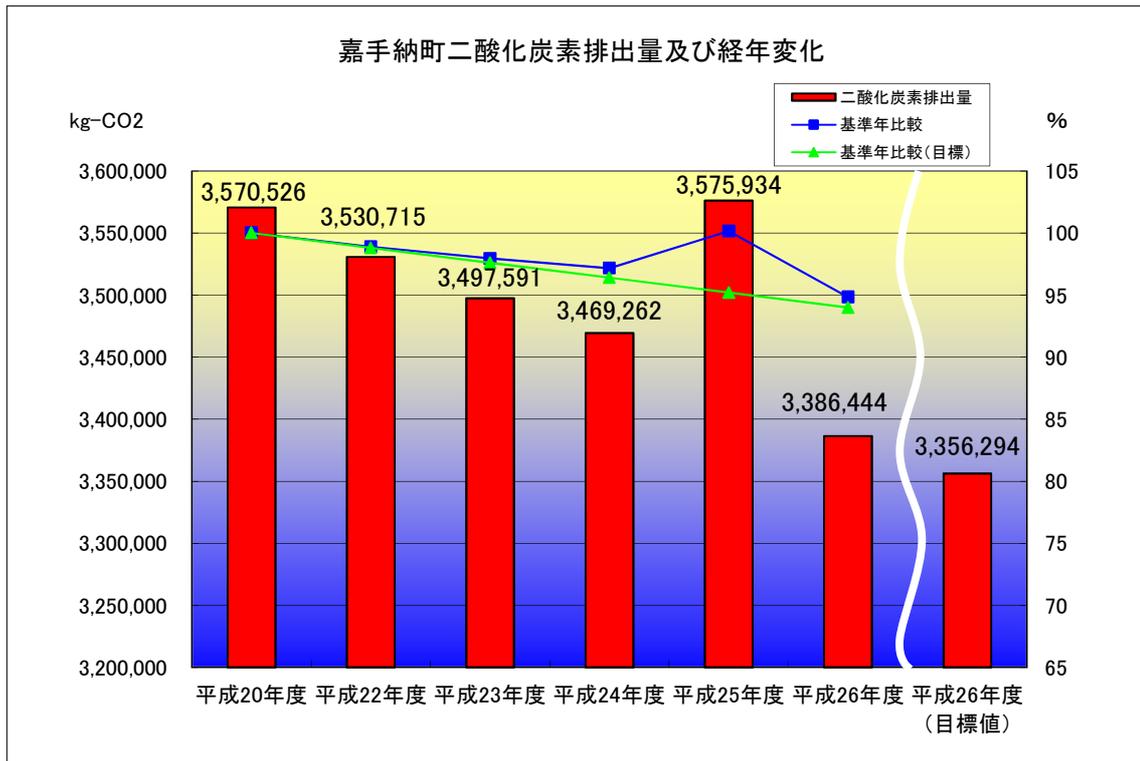
2.1 温室効果ガス排出量（二酸化炭素）

平成26年度実績 **3,386,444 kg-CO₂**

嘉手納町の平成26年度の温室効果ガス排出量は、CO₂で3,386,444kg-CO₂であり、平成20年度実績に対し、約5.2%減少となった。

表2-1 温室効果ガスの総排出量の経年変化（単位：kg-CO₂）

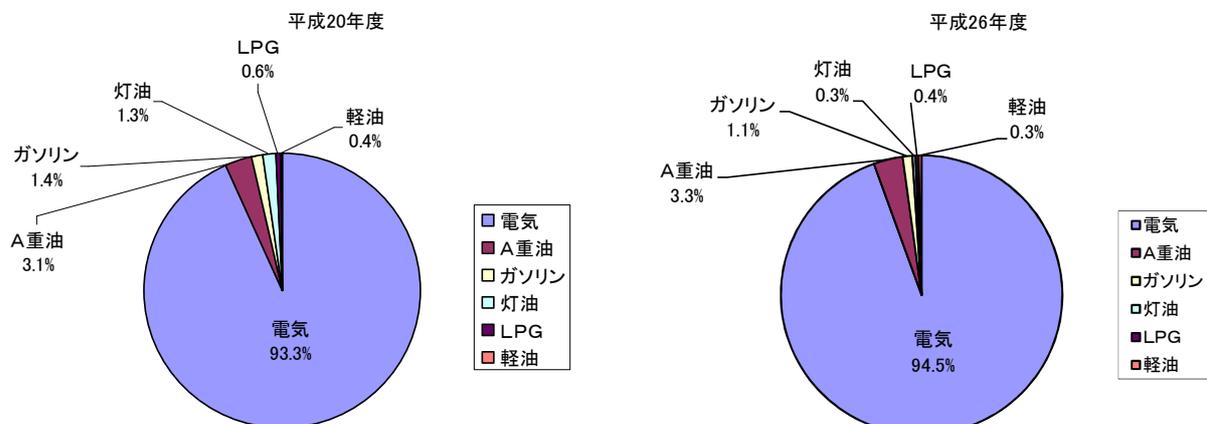
区分	平成20年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成26年度 (目標値)
温室効果ガス (二酸化炭素) 総排出量(kg-CO ₂)	3,570,526	3,530,715	3,497,591	3,469,262	3,575,934	3,386,444	3,356,294
平成20年度比(%)	—	△ 1.1	△ 2.0	△ 2.8	0.2	△ 5.2	△ 6.0



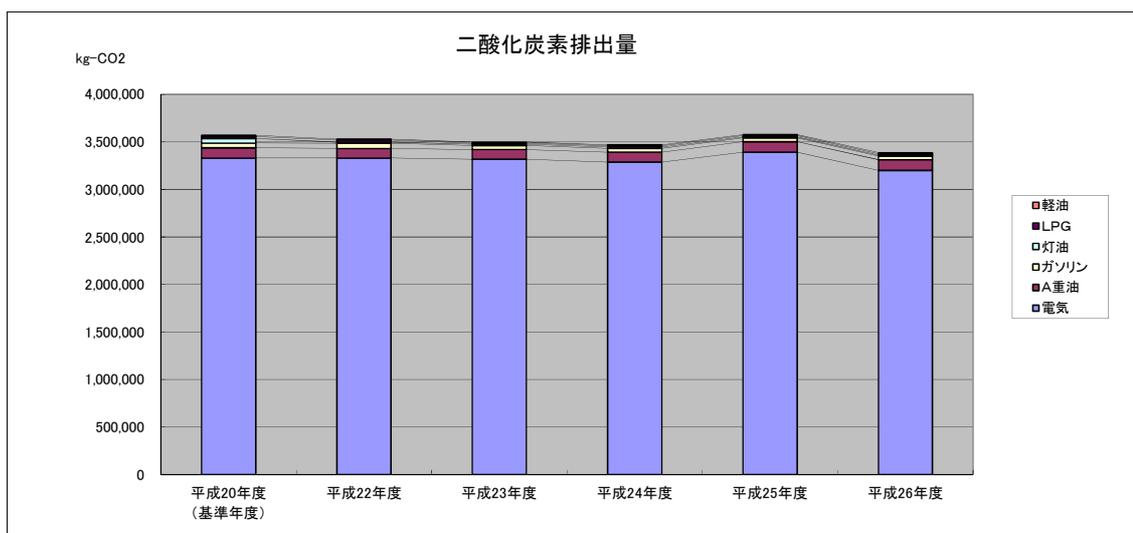
2.2 発生源毎の割合

最も排出量の高い二酸化炭素発生源は、電気使用量が94.5%であり、以下A重油が3.3%、ガソリンが1.1%、LPGが0.4%、灯油が0.3%、軽油が0.3%と続く。

この順番は、基準年度の平成20年度とは灯油とLPGの順が逆転している。



(注) 四捨五入のため、合計値が合わないことがある。



嘉手納町対象組織及び施設の要因別の二酸化炭素排出量の基準年比較

項目	単位	平成20年度(基準年度)		平成26年度		基準年比較 CO ₂ 排出量 (Kg-CO ₂)
		使用量	CO ₂ 排出量 (Kg-CO ₂)	使用量	CO ₂ 排出量 (Kg-CO ₂)	
電気	kWh	3,520,204	3,330,113	3,383,368	3,200,666	-129,447
A重油	ℓ	40,350	109,349	41,667	112,918	3,569
灯油	ℓ	19,171	47,737	4,747	11,820	-35,917
LPG	m ³	3,045	20,097	1,814	11,970	-8,127
ガソリン	ℓ	21,140	49,045	16,180	37,537	-11,508
軽油	ℓ	5,498	14,186	4,470	11,533	-2,653
二酸化炭素合計			3,570,526		3,386,444	-184,081

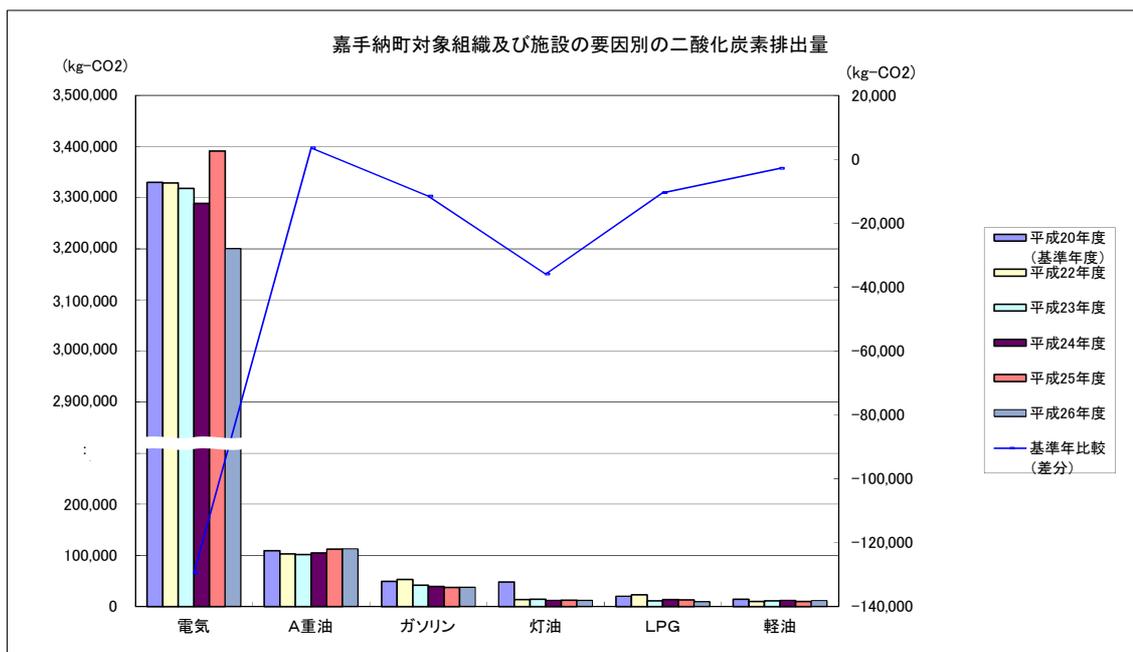
(注) 四捨五入のため、合計値が合わないことがある。

2.4 要因別排出量

対象組織（課）及び施設の要因別排出量をみると、電気使用量は3,200,666kg-CO₂（129,447kg-CO₂減少）と大きく減少しており、前年の平成25年度3,391,509kg-CO₂から190,834kg-CO₂減少となっている。

A重油が112,918kg-CO₂（3,569kg-CO₂増加）と若干増加となっている。

灯油は11,820kg-CO₂（35,917kg-CO₂減少）となっている。

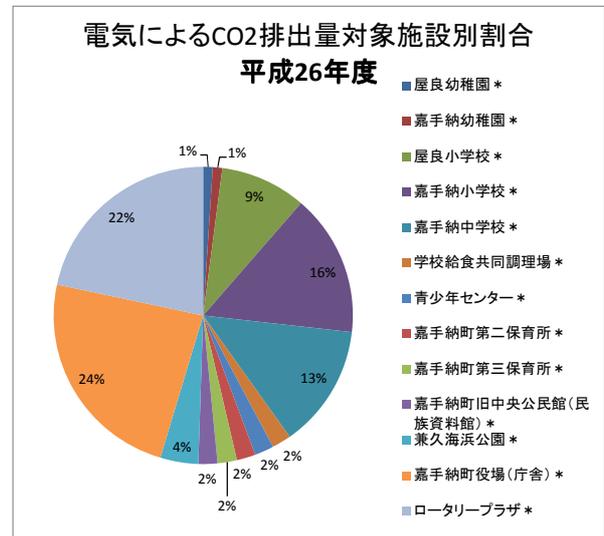
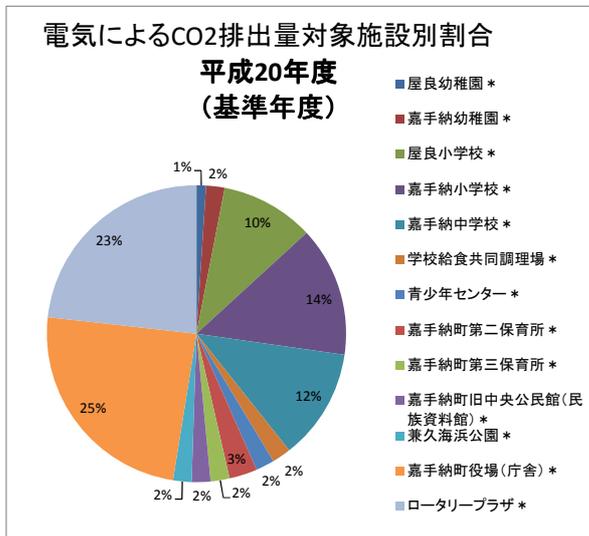


3. 考察及び今後の課題

3.1 考察

嘉手納町の平成26年度の温室効果ガス排出量は、3,386,444kg-CO₂であり、基準値である平成20年度の実績値に対し、約5.2%減少となっている。平成25年度の実績（約0.2%増加）より1年間で約5.4%減少している。目標達成とはならなかったが目標値に近い値まで減少することができた。

効果的に温室効果ガス排出量を削減するためには、最も排出量の多い二酸化炭素発生源である「電気」の使用量が多い小中学校（全体の36%）、嘉手納町役場（本庁）（全体の25%）、ロータリープラザ（全体の23%）で大きく減少させることが必要である。



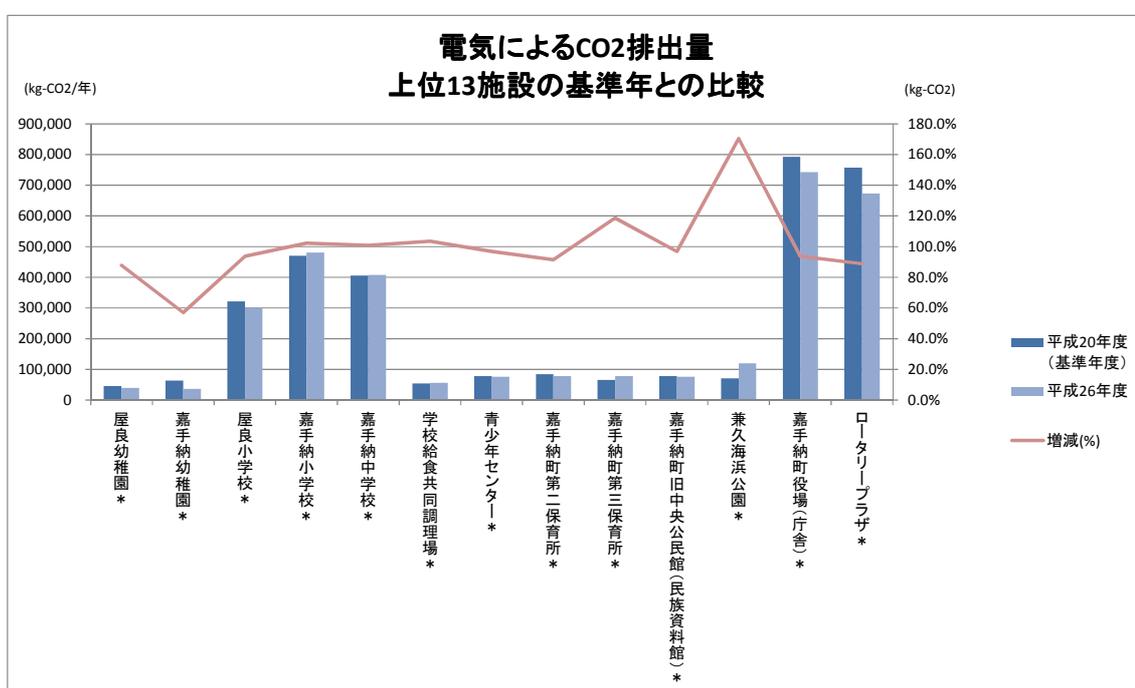
基準年度である平成20年度から6%以上減少達成できたのは、嘉手納幼稚園（57%）、屋良幼稚園（87.9%）、ロータリープラザ（88.9%）、嘉手納町第二保育所（91.4%）、屋良小学校（93.7%）、嘉手納町役場（庁舎）（93.7%）となっている。青少年センター（96.9%）、嘉手納町旧中央公民館（民族資料館）（96.9%）は、基準年度（平成20年度）から減少したが、6%未満となっている。

嘉手納小学校（102.3%）、嘉手納中学校（100.8%）、学校給食共同調理場（103.6%）は、若干増加しているがほぼ同程度となっている。

兼久海浜公園（170.4%）、嘉手納町第三保育所（118.6%）と大きく増加している。

これらのことから、兼久海浜公園、嘉手納町第三保育所で増加があったものの、ロータリープラザや嘉手納町役場（庁舎）の減少が大きく結果として基準年度である平成20年度から約5.2%減少することができたと考える。

	施設名	平成20年度 (基準年度)	平成26年度	基準年比較 (差分)	増減(%)	達成状況
1	屋良幼稚園*	45,188	39,707	-5,480	87.9%	○
3	嘉手納幼稚園*	63,477	36,160	-27,317	57.0%	○
4	屋良小学校*	321,186	300,950	-20,236	93.7%	○
5	嘉手納小学校*	470,200	481,159	10,959	102.3%	×
6	嘉手納中学校*	405,332	408,382	3,050	100.8%	×
7	学校給食共同調理場*	54,166	56,100	1,934	103.6%	×
9	青少年センター*	78,184	75,740	-2,444	96.9%	×
10	嘉手納町第二保育所*	84,829	77,528	-7,300	91.4%	○
11	嘉手納町第三保育所*	65,417	77,605	12,188	118.6%	×
31	嘉手納町旧中央公民館(民族資料館)*	78,184	75,740	-2,444	96.9%	×
58	兼久海浜公園*	70,274	119,781	49,507	170.4%	×
65	嘉手納町役場(庁舎)*	792,818	742,503	-50,315	93.7%	○
66	ロータリープラザ*	757,590	673,457	-84,133	88.9%	○

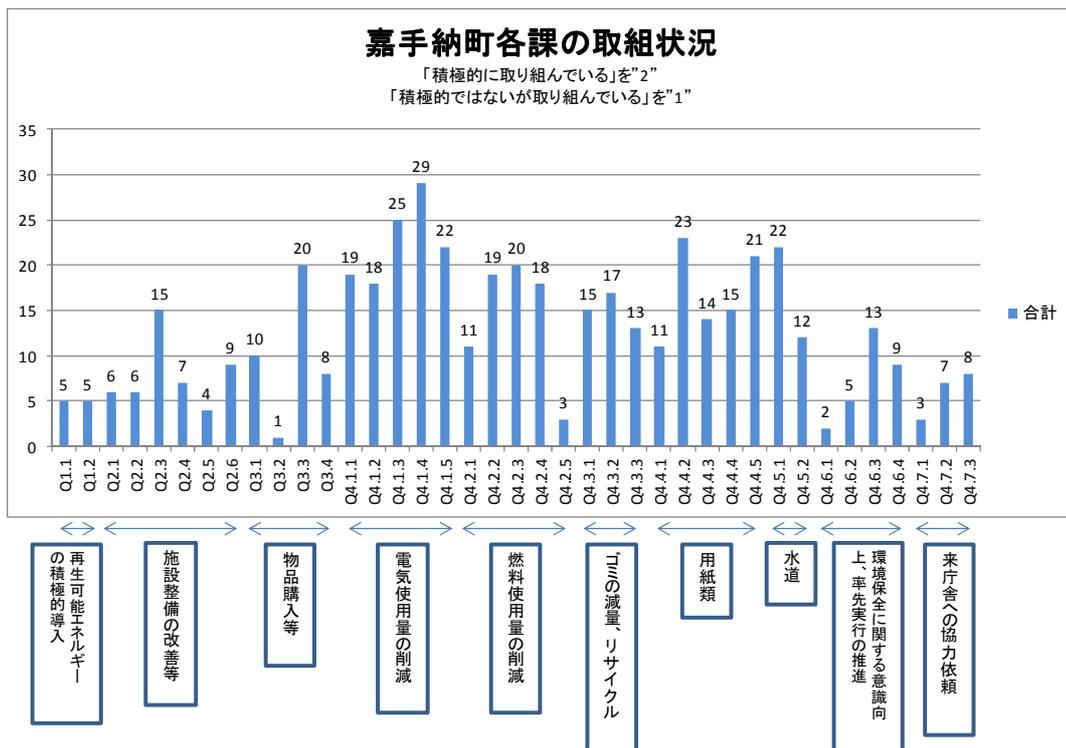


屋良幼稚園、嘉手納幼稚園、屋良小学校やロータリープラザが減少している理由としては、幼稚園、小中学校を管理する教育指導課や教育総務課、ロータリープラザを管理する社会教育課（中央公民館）が“電気使用量の削減”に取り組んだ成果が現われていると考える。

嘉手納町役場（庁舎）についても、各課が“電気使用量の削減”に取り組んだ成果が現われていると考える。（嘉手納町各課の取組状況参照）

兼久海浜公園が増加している理由としては、平成24年度からウォーターガーデンを設置し、そのポンプ稼働による電気使用量が増加したためと考える。

嘉手納町第三保育所が増加している理由としては、調理機器をガスから電気（電磁調理機器）に換えたことが原因の可能性があると考える。



取組の多い5項目

退庁時に身の回りの電気器具の電源が切られていることを確認する	電気使用量の削減
昼休みや時間外及びトイレ、給湯室棟に利用者がいない場合など、不必要箇所の消灯を行う	電気使用量の削減
両面印刷、裏面コピー、縮小コピーを徹底し、用紙の削減に努める	用紙類
OA機器等の電源をこまめに切るように努める	電気使用量の削減
日常的に節水を心がける	水道

3.2 課題

最も排出量の多い二酸化炭素発生源である「電気」の使用量の比較的多い小中学校、嘉手納町役場（本庁）、ロータリープラザで電気使用量の削減を行えば効果的な削減となるため、小中学校、嘉手納町役場（本庁）、ロータリープラザで職員及び使用者全員の電気使用量の削減意識を向上させ、削減に向けての取り組みの普及・啓発を推進すれば、さらなる削減が可能と考える。

また、今回二酸化炭素排出量が増加した兼久海浜公園は、“ウォーターガーデンのポンプ使用時間を抑えることが可能か”という観点で電気使用量の削減意識を向上させて検討する必要があると考える。

嘉手納町第三保育所について、電磁調理機器を使用することで電気使用量が増加することを認識させ、それ以外の電気機器による電気使用量の削減意識を向上させ、削減に向けての取り組みをする必要があると考える。